

令和6年12月23日

鹿沼市議会

議長 谷 中 恵 子 様

教育福祉常任委員会

委員長 藤 田 義 昭

教育福祉常任委員会行政視察調査報告書

教育福祉常任委員会では継続調査のテーマ「子育て教育の環境整備について」に基づき行政視察を実施したので下記のとおり報告します。

記

1 視察日程

令和6年10月16日（水）～10月18日（金）

2 参加者

教育福祉常任委員会

委員長 藤田 義昭

副委員長 宇賀神 敏

委員 谷中 恵子

委員 舘野 裕昭

委員 佐藤 誠

委員 舩生 雅秀

委員 橋本 勝浩

3 視察先と調査事項

1. 八戸市（青森県）

八戸市こどもモニター制度について

八戸市こどもまちなか IT 部について

こどもファスト・トラックの取り組みについて

八戸市未来の保育士応援奨学金制度について

八戸市美術館の現地視察

八戸ブックセンターの現地視察

2. 函館市（北海道）

はこだてみらい館&はこだてキッズプラザの現地視察

函館市中央図書館の現地視察

4 各視察内容の詳細

(1) 八戸市（青森県） 10月16日（水）～17日（木）

◆八戸市の概要

（人口）216,032人、（世帯数）110,189世帯、（面積）305.56㎢

（当初予算）96,100,000千円、（議員数）28人 ※R6.4月現在

太平洋に臨む青森県の南東部に位置し、北はおいらせ町及び五戸町、西は南部町、南は階上町及び岩手県軽米町に接している。地形は、なだらかな台地に囲まれた平野が太平洋に向かって広がり、その平野を三分する形で馬淵川、新井田川の2本の川が流れている。臨海部には大規模な工業港、漁港、商業港が整備され、その背後には工業地帯が形成されている。このため、優れた漁港施設や背後施設を有する全国屈指の水産都市であり、北東北随一の工業都市となっている。

こども健康部こども未来課を設置し、次世代育成支援対策推進法に基づく「次世代育成支援行動計画」と、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を併せて一体的に策定した【第2期八戸市次世代育成支援行動計画】に基づき、子ども・子育て支援施策の総合的かつ計画的な実施を進めている。

①八戸市こどもモニター制度

- ・こどもたちの声を聴き、市政運営に役立てるための取組として、令和6年度に創設。市内に通学する小学5年生～高校3年生100名による「こどもモニター」から市のさまざまな課題や施策について、スマホやパソコンを利用して、各担当部局からのアンケートに回答してもらい市政運営の参考にする取り組み。
- ・所管：こども健康部 こども未来課 企画グループ
- ・こどもは社会を共にパートナーという視点で、こどもたちの社会参加や自分たちの意見を市に届けられる仕組みをつくり、地元のことを知る機会を創出することが目的。
- ・女性や若者により構成された「まちの魅力創生ネットワーク会議」からの提案に基づいて仕組みをつくった。

- ・謝礼として回答 1 回あたり 500 円分の図書カードを贈呈。任期 1 年。
- ・市で毎年作成「八戸 10 大ニュース」などの参考にもしている。

②八戸市こどもまちなか IT 部

- ・市内に通学する中学生・高校生 1 2 名の部員が、こどもたちが興味をもちそうな情報を集めたホームページを制作しながら、地元を自分たちの目線で取材し、楽しみながら情報発信に取り組むことを目的として令和 6 年度に創設。
- ・所管：こども健康部 こども未来課 企画グループ
- ・「八戸市こどもモニター制度」と同様に、こどもは社会を共にパートナーという視点で、こどもたちの社会参加や自分たちの意見を市に届けられる仕組みとして、集まる楽しさを感じながら、多くの学びや体験ができる居場所をつくること、こどもたちが主体の情報発信の仕組みをつくることが目的。
- ・「まちの魅力創生ネットワーク会議」からの提案
- ・活動場所は、八戸工業大学・番町サテライトキャンパス「ばんらぼ」
- ・市、大学生及び事業運営する民間事業者が活動をサポートする産学官連携の取り組み。
- ・令和 7 年 3 月に HP を完成させることが当面の目標

③こどもファスト・トラック



- ・「こどもファスト・トラック」とは、公共施設や商業施設などの受付において、妊婦の方やこども連れの方を優先する取組のことを言う。
 (例) イベントや手続きなどで優先窓口や優先レーンを設置。
 電車やバスなどに専用スペースを設置。
- ・国において、こども・子育てにやさしい社会づくりに向けて、「こどもファスト・トラック」の取組を、一部国立施設等で先行的に開始しており、さらに他の公共施設、民間施設へと、全国的に広げていく方針としている。
- ・所管：こども健康部 こども未来課 企画グループ

- ・八戸市公会堂で行われたイベントにおいて、小さなお子さんを連れの方などが長時間並ぶことなく、優先して入場できる「こども連れ家族優先レーン」を設置。
- ・八戸美術館では、小さなこども連れ家族が気兼ねなく展覧会を鑑賞できる「ベビーファーストデー」を実施。
- ・市庁舎の本館・別館のエレベーターのうち、それぞれ1台を、ベビーカーや妊婦の方などのための優先エレベーターとしている。
- ・市営バスでは、ベビーカーを折りたたまずに乗ることができるバスを随時導入している。
- ・赤ちゃんお出かけ応援事業として、授乳・おむつ交換の環境改善の取り組みとして、公共施設におむつ用ごみ箱やこども用補助便座の設置、授乳・おむつ替え用赤ちゃんテントの貸し出し事業を令和6年度から開始。

④八戸市未来の保育士応援奨学金制度

- ・保育人材の育成と人材の確保、さらに入所待ちの児童の解消を図ることを目的に、未来の保育士である学生の就学を支援し、市内で保育士として活躍してもらうため、指定保育士養成施設（八戸学院大学など）に在学する学生のうち、卒業後に市内の保育所等（認可保育所又は認定こども園）に保育士として勤務する意思のある学生に対し修学資金を貸与する奨学金制度。2018年から実施。
- ・所管：こども健康部 こども未来課 企画グループ
- ・月額4万円を卒業する月まで貸与（上限24か月、無利子）
- ・卒業後1年以内に市内の保育所等に保育士として就職し、引き続き5年間以上勤務した場合には、借り受けた修学資金の返還を全額免除。
- ・制度開始7年で、35人に貸与、市内保育施設就職者21名。
- ・「こども未来基金」を新設し財源としている。

⑤「八戸市美術館」の現地視察

- ・八戸市が進めてきた「アートのまちづくり」の方針に基づき、市民の文化芸術活動の拠点として、街の賑わいも創出できることを目的に、中心市街地周辺との一体的な景観形成を図り整備した。

2016年：基本構想策定、2017年：旧美術館建物解体、
2019年：建築工事着手、2020年：広場整備工事着手、
2021年：完成、オープン



- ・アートを通じた出会いが人を育み、人の成長がまちを創る「種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～出会いと学びのアートファーム～」がコンセプト。これまで美術品展示が中心だった美術館とは異なり、「ひと」が活動する空間を大きく確保することで、「もの」や「こと」を生み出す新しいかたちの美術館として、新たな文化創造と市全体の活性化を図ることを目指している。
- ・所管：観光文化スポーツ部 八戸市美術館
- ・運営体制：職員 20 名（正職員 12 名、館長 1 名、美術専門監 1 名、テクニカルコーディネーター 1 名、学校連携コーディネーター 1 名、事務 4 名）
- ・建築面積 3,080.21 m²、延床面積 4,586.42 m²
- ・本棟工事費 約 32 億円（国交省の社会資本整備総合交付金「都市再構築戦略事業」を活用。補助率 1/2）
- ・館内でもっとも特徴的な「ジャイアントルーム」は、移動棚やカーテン、家具によって自在に場所づくりのできる来館者が自由に使える広大な空間であり、アーティストの創作活動やイベント開催などでも使われている。
- ・展示方法や用途により選択できるスペースや部屋が複数あり、ダンスや演劇ができるスタジオも完備。
- ・地元のアーティストや大学、市の子ども・子育て支援と連携した事業活動の拠点となっている。
- ・令和 5 年度 来場者 109,277 人（開館日一日あたり 348 人）

⑥「八戸ブックセンター」の現地視察

- ・市長の政策公約に掲げる「本のまち八戸」を推進する中心拠点として 2016 年 12 月開設。市直営の書店（市所管：観光文化スポーツ部文化創造推進課）



ハチョウブックセンター



- ・ 民間事業者が建設した中心市街地の複合ビル「ガーデンテラス」の1階に設置。面積 315 平方メートル（約 95 坪）
- ・ 店内にはカフェスペース（軽食、アルコール類も提供）、読書会ルーム、カンヅメブース（執筆用の個室）などを併設。
- ・ 本に触れてもらう機会を増やすことがコンセプトで、売り上げを伸ばすことが目的ではない。

『八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」』

- ・ 書店を知的情報インフラと捉え、大型書店のある大都市と地方都市の文化的環境の格差を解消

「本に関する新たな公共サービスを提供することで、市民が様々な本に親しみ、豊かな想像力や思考力を育みながら、本のある暮らしが当たり前となる、文化の薫り高いまちを目指すとともに、当施設を中心市街地に開設することにより、来街者の増加や回遊性の向上を図り、中心市街地の活性化にもつなげることを目的としている。

- ・セレクトブックストアとして、提案型・編集型の陳列
- ・市内の民間書店や図書館、市民活動と連携・棲み分け。民間書店は売れ筋の本以外は置きにくいこと、図書館とは「貸す」と「買う」の違いによる共存。
- ・マイブック推進事業（平成 26 年度から）小学生に市内書店で書籍購入できるクーポン年 2,000 円分（500 円×4 枚）を配布。児童が書店に足を運び、自ら本を選び購入する体験を通して読書に親しむ態度を養う。併せて「おすすめブックリスト」の作成と配布、ワークショップ開催などを実施。R5 事業費 22,538 千円
- ・本に関するイベントの開催。読書会、アカデミックトーク、ギャラリー展、パワープッシュ作家（地元出身作家の応援）、ブックフェス、ブックサテライト（店舗や公共施設への本棚設置）
- ・所管：観光文化スポーツ部 文化創造推進課 八戸ブックセンター
- ・運営体制：民間書店経験者 4 名を市職員として雇用（選書など）、一部業務は民間委託（運営、レジなど）
- ・「ガーデンテラス」に隣接する約 1,100 m²の敷地には、屋根と壁がガラス張り、2 階デッキを擁した全天候型の多目的広場「八戸まちなか広場マチニワ」があり、八戸ブックセンターで購入した本を広場で読んだり、本にまつわるイベントを開催するなど一体的に利用されている。
- ・令和 5 年度データ 来館者：82,737 人、販売冊数：6,881 冊、販売金額 10,861 千円、運営経費 95,600 千円（うち一般財源 63,072 千円）

《八戸市の取り組みについての所感》

- こども未来課内に企画グループを設置し、子ども子育て事業を総合政策的な視点において他の部署だけでなく、地元の大学などと連携を図りながら事業の立案・推進を行っている。
- 特に、こどもモニター制度では市の 10 大ニュースにも活用するなど、事業の波及効果が優れている。
- 各種事業提案を行ってきた「まちの魅力創生ネットワーク会議」は、今後の人口減少対策のキーポイントとなる女性や若者によって構成されており、市民との対話を進めていくプラットフォームとして有効である。

- こどもファストトラックは鹿沼市のイベントなどでもすぐに導入できるのではないかな。
- 未来の保育士応援奨学金制度は、まちにとって必要な人材をピンポイントかつ長期的な視点で確保していく施策として有効である。鹿沼市においても今後、人材不足が見込まれる分野の人材確保の仕組みとして導入されたい。
- 八戸市美術館は、既存の美術館にとらわれない市民が自由に活動できる多目的に利用できる施設である。複合的に利活用できる公共施設のあり方として参考になるのではないかな。
- 八戸ブックセンターは、民間書店が減りつつある地方都市での新たな対応策の一つである。本を将来の地域を創っていく大切な知的情報インフラとして位置づけ、子どもに向けた事業と組み合わせて推進している。今までにない新たな取り組みを行うには自治体としての方針、目的の明確化と組織内でのコンセンサスが必要不可欠であることをあらためて感じた。
- 八戸市では「観光文化スポーツ部」を設置し、美術館やブックセンター等を所管。観光と文化を一体的に事業展開し、各施設の魅力を活かし集客を図っている。さらに市民の地元愛や誇りの醸成に役立っていると感じた。



(2) 函館市（北海道） 10月17日（木）～18日（金）

◆函館市の概要

（人口）237,790人、（世帯数）138,835世帯、（面積）677.87km²
 （当初予算）143,270,000千円、（議員数）27人 ※R6.7月現在

北海道の南端部に位置し、北国としては比較的温暖な気候風土を持っており、日本最初の貿易港の一つとして世界に開かれ、さまざまな外国の文化を取り入れるとともに、水産業や造船業を主要産業として発展を遂げてきた。現在は、その歴史と異国情緒あふれる街並み、四季を通じてさまざまな表情を見せる自然、豊かな海と爽やかな気候に育まれた多彩な食など、さまざまな観光資源を生かし、毎年 500 万人以上の観光客が訪れる国際観光都市として賑わっている。

① 「はこだてみらい館&はこだてキッズプラザ」の現地視察

- ・ 駅前の中心市街地活性化のため、低利用化・老朽化の著しい民間ビルを含む街区を一体的に再開発。ビル内に商業施設、集合住宅等と併せ、子育て世代活動支援施設を整備。当施設は平成 28 年(2016 年)より開設。
- ・ 指定管理者：はこだてみらいプロジェクト運営グループ（民間事業者の複合組織）
- ・ 再開発ビルの全体概要：敷地面積 2,795 m²、建物延面積 17,777 m²、地下 1 階地上 16 階建（B1～2F 店舗、2F はこだてみらい館、3F はこだてキッズプラザ、5～16F 分譲マンション 84 戸）
- ・ 整備事業費 2,014,584 千円
- ・ R5 運営費 213,662 千円（うち市委託料 139,451 千円）
- ・ 事業効果：ビル前の 2 日間の日中歩行者数が H28 から H29 にかけて 5,420 人→8,136 人、約 33%増加。ただしコロナ影響により R2 には 2,972 人まで減少したが少しずつ増加、R5 は 5,350 人

【はこだてみらい館】

- ・ 市民や観光客に最先端技術を活用した体験コンテンツ設置やワークショップにより、交流の場を提供しながら中心市街地の賑わいを創出する。



- ・ 施設面積：1,325.09 m²、施設内容：多目的ホール、シアター、テラス、ラボラトリー、スタジオ等
- ・ 入館料：300 円（就学前幼児無料）定期利用券 3 ヶ月 600 円・6 ヶ月 1500 円（※両施設共通利用の割引あり）
- ・ R5 来場者数：58,900 人

【はこだてキッズプラザ】

- ・遊びを通じて親子の交流する場及び子育てを支援する場を提供し、中心市街地の賑わいを創出していく。さらに、子育てに関する悩みの相談対応を行う。



- ・施設面積：1,203.22 m²、施設内容：プレイグラウンド、乳幼児コーナー、託児室、授乳・おむつ替え室、相談室等
- ・入館料：子ども 300 円・保護者 100 円（生後 6 ヶ月未満乳児無料）定期利用券 3 ヶ月各 600 円・300 円、6 ヶ月各 1500 円・500 円（※両施設共通利用の割引あり）
- ・R5 来場者数：108,608 人

②函館市中央図書館の現地視察

- ・市内には 6 つの図書館のほか移動図書車「ともしび号」を運用
- ・指定管理者による管理運営
- ・2005 年開設、(R5)入場者数 433,711 人、貸出人数 168,656 人、貸出冊数 741,751 冊
- ・敷地面積 11,691.81 m²、床面積 7,687.13 m²うち開架床面積 3,663.98 m²
地下 1 階地上 2 階建、駐車場 150 台、喫茶コーナーなど
- ・図書館内での会話について、市内の他施設にはミーティングできるスペースが複数あり、一方で静かな場所で読書や学習を希望する市民も多くいる

ことから、各施設の特徴によって分けている。なお、中央図書館ではミーティングルームやサイレントルームを導入しており、またヤングアダルトコーナー内の学習室は会話ができるスペースとしており多くの学生が利用している。

- ・移動図書館「ともしび号」は常に約 1000 冊を搭載し各施設を巡回。利用者ニーズを考慮しながら、職員が本の選定・入換を行っている。



《函館市の取り組みについての所感》

- 「はこだてみらい館&はこだてキッズプラザ」は子育て支援や中心市街地の賑わい創出で一定の成果はあるが、費用対効果の点で一考を要する。
- 函館市中央図書館は、スタンダードな図書館であるが、職員が他施設との比較・棲み分けを考慮するなど幅広い視点で運営にあたるなど、市民のニーズに応えた使いやすく居心地のいい施設であると感じた。

5 まとめ

今回視察調査した両市とも、市長の公約や方針に基づき各施策が立案され、各担当部局においても職員も主旨や目的を十分に理解したうえで事業遂行から成果分析までされている印象があった。

八戸市においては限られた財源の中で事業の選択と集中を行い、子どもを「未来の人財」として育て、本や芸術文化などの知的財産を活かし、将来を見据えたまちづくりに取り組んでいる。あわせて、これらの各事業を総括する部署（こども健康部こども未来課企画グループ、観光文化スポーツ部文化創造推進課）を設置し、他部署や外部との連携、集客、市民の地元愛の醸成など、特性や魅力を活かしながら幅広い波及効果を高めている。

函館市は駅前の広い空間や居心地のいい図書館、路面電車の運行など、市民が自分のまちを心豊かに楽しめるコンテンツが豊富で、それらをさらに活かしており、魅力度ランキング全国一位のまちの底力を感じた。

両市の取り組みから得られた知見や気づきを鹿沼市の政策への提言・提案として今後まとめていく。最後に今回の視察調査に受入れ協力いただいた関係者の皆様に感謝を申し上げる。